

市長のまち探検

並木市長が訪問した企業や事業所、市民活動団体を紹介します。

Vol.14



今回紹介するのは

津田工業株式会社
川里工場



会社のHP

所在地：赤城台362-28

問合せ 秘書課（内線2014）



製造現場の様子



蒸着工程の説明を受ける市長(左)



現場で活躍する社員の皆さん

化粧品印象を左右する、心ときめく色合いや光沢、質感。

今回は、そうした製品の見た目の美しさや使うときの心地よさを、長年培った技術と現場の丁寧な仕事で支える津田工業株式会社川里工場を訪問しました。

世界のトレンド

「環境対応にできる」技術力

同社は化粧品などの容器や部品に蒸着・塗装・レーザー加工を施し、製品に高級感や個性を与えています。国内外の大手化粧品会社の容器をはじめ、人気美容関連メーカー等の商品も手掛けています。

津田会長は「海外メーカーとの取引では、SDGsや環境対応への姿勢が重視されます」と話し、竹や紙などの自然素材、生分解性素材を用いるなど、環境に配慮した製品開発にも力を入れています。

試行錯誤が生み出す 唯一無二のクオリティ

懇談では、製造現場で活躍する皆さんから「世の中に出ていないものを形にできるのが面白い」「お客様の要望に合わせて試作を重ね、採用されたときにやりがいを感じる」といった声が聞かれました。試行錯誤を重ね、色味、質感、手触りまで磨き上げる現場の力がありません。

製造業が挑む、

おいしいSDGs

本業である化粧品容器等の加飾に加え、地域資源を生かした「ジェラートづくり」にも挑戦しています。

きっかけは、7年前に和歌山県に工場を建設した際、地域の特産でありながら市場に出回らない「規格外・未利用みかん」の食品ロス削減に貢献できないかと考え、みかんジェラートを開



きゅうりジェラートを発案した小林さん(左)と渡邊さん(右)

発したことでした。製造業が食品づくりに取組むという意外な挑戦の背景には、「素材を無駄なく生かし、地域の魅力を新しい形で届けたい」という思いがあります。

この経験から、埼玉県産の農産物でもジェラートを作ろうと思いついた、誕生したのが鴻巣市産のきゅうりを使った「きゅうりジェラート」です。

開発した渡邊さんと小林さんは、「はじめは、おいしくなくて、どうしようかと(笑)。試行錯誤して、ようやく商品化にこぎつけました」と笑いを誘います。試食した市長は、「メロンのような風味で、後味に、ほんのりきゅうりを感じます。とてもおいしいです」と絶賛。現在は、県内の一部のコンビニ等で販売されています。

ものづくりで培った発想力が、地域資源の新たな魅力を引

き出す取組にも広がっていました。



きゅうりジェラート



Instagram

懇談を終えて

社員の皆さんの丁寧な挨拶から、ものづくりに真摯に向き合う姿勢が社風として根付いていることを感じました。

きゅうりジェラートは、さっぱりとした味わいで、良い意味で驚かされました。令和10年開業予定の「道の駅こうのす」での販売も検討したいとのことでした。

同社の高い技術力と、分野を越えて挑戦する柔軟な発想に触れ、地域に根差しながら新しい価値を生み出す企業の魅力を実感しました。



ひなちゃんぬいぐるみを持つ津田会長と社員の皆さん